

東京のまちづくり活動トピックス

シリーズの最後となった今回の講座は、今もまだ新型コロナウイルス感染症の対応に迫られる医療現場の現状や取り組み、生活者の暮らしの変化について、ご多忙のなか時間を割いていただき、医療生協の現場で活躍する3名の方にお話しいただきました。

コロナ禍の暮らしを知る その3 ～医療生協の現場から～

開催日：2021年4月16日(金)13:30～15:30
形式：Zoomによるオンライン開催
参加人数：46名 後日視聴希望11名(講師除く)
参加生協・団体：8生協 3団体

新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた 王子生協病院の1年

平井 敦子さん(東京ほくと医療生協 王子生協病院 副総看護師長)



昨年2月に起きたクルーズ船や屋形船での新型コロナウイルス感染症のクラスターの情報を受け、早い時期に市中に広がると予測した王子生協病院は、2月末には、感染症患者の受け入れを決めました。それからの一年間の様子をお話しいただきました。

医師集団・職員の思いと生協の理念

確立された治療法がない中で、感染した患者さんの受け入れを決めたのは、「新型インフルエンザ」が発生した時の協力病院として訓練していたことや、何より医師集団を中心に、職員が「王子生協病院は地域に暮らす人々の安心安全のためにあるんだ。」という理念に職員が立ち戻ったから。これから起こりえる困難に力を合わせて乗り越えていこうという意気込みに加え、通常から感染対応が組織化されていたことも大きい。

始まった受け入れの中で

昨年4月に受け入れた患者さんにPCR検査を行ったところ、予期せず陽性反応が出たことで、院内に緊張が走ったが、これを機に感染対策が強化された。

感染対策用品が足りない中で

組合員から「不足している防護具を手作りして届けよう」と支援の輪が広がり、たくさんの手作り防護具が届いた。これこそが生協の強みだと、医療生協職員であることを誇りに思った。

行政からの依頼で受け入れた入院患者さんは66名。発熱外来も含め、目の前にいる患者さんに向き合ってきた1年だった。これからも組合員や地域の皆さんと力を合わせて頑張っていきたい。



《王子生協病院》所在地は北区。病床数は159床。

無料低額診療事業～橋場診療所とコロナ禍～

松井 美春さん(東京保健生協 橋場診療所 看護師長)



隅田川のそばにある橋場診療所で、事業として取り組んでいる「無料低額診療」。社会的処方の実践、コロナ禍でこれまでと全く変わってしまった日常の中で、地域で暮らす方々にどのような変化があったのかなどを、お話しいただきました。

「無料低額診療」とは

生計困難者が経済的な理由で必要な医療を受ける機会を制限されないように、無料または低額で診療が受けられる制度。都内54の医療機関で実施されており、うち6か所ある診療所の一つ。全額免除となる対象者の認定は内規で定める収入基準による。申込は、患者本人からの申し出、様々な窓口からの紹介、職員が生活困窮の状況を知った場合が多い。公的制度や社会資源の活用を検討しながら適合を判定。

2020年度の特徴

コロナ禍で、無料低額申請を希望される方の中に、ネットカフェで暮らす20代、30代の若い世代が増加。近隣に外国人向けのシェルターが開設したこともあり、外国人の申請も増えた。

東京保健生協では、生活環境を処方する「社会的処方」を目指す実践も始まっている。この取り組みは診療所だけでなく、組合員活動とリンクすることで広がっていきと考えている。

診療所での社会的処方

- * その方が抱えるSDH(健康の社会的要因)の問題に気付くこと、拾い上げること
- * 有効な地域の社会資源につなぐこと
- * 診療所自身が相談窓口や居場所となり、ここに来れば誰かと会える、話ができる、人と人がつながり、安心感のある拠り所になる。



近くに生活困窮者支援のNPOなどの団体があり、医療相談会が行われる

コロナ禍における大泉生協病院の医療福祉相談の変化

社会福祉の専門家として、病院内で患者さんとそのご家族の経済的、社会的、心理的な悩みなどの相談を受け、問題解決に向けて支援している医療ソーシャルワーカーの工藤さんより、活用されている制度や相談内容の変化などをお話しいただきました。

制度利用や連携先につなぐ



工藤 妙子さん(東京保健生協 大泉生協病院 医療福祉相談課長)

医療福祉相談例

医療費の支払いに不安がある。無料低額診療事業の利用方法。病気による収入減や経済基盤が心配。身体障害や難病で利用できる制度を知りたい。介護などの日常生活支援を知りたい。長期入院できる病院を紹介してほしい。自宅で療養したい。どこに相談したらいいか困っている など。

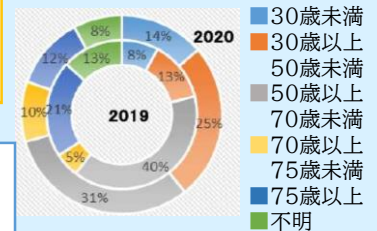
コロナ禍での相談の変化

「無料低額診療」や「経済相談」は昨年より少し増えた。ただ、困っている方が増えていないということではない。

今後の予測と心配なこと

診療やフォローが必要な方に支援が届きにくい、困っている方が発信できない・発信しにくい状況への対策が必要。経済的な事情による受診控えや支援対策が順次終了し支援から取り残された方がさらに増える。また、社会保険制度への理解不十分で、国保に加入せず制度を活用できない若者層や外国人の方への対応。新型コロナウイルスの後遺症が重い方が利用できる制度が少ない状況。さらに、支援給付の相談は、体調がすぐれない中でも役所まで行かないといけなど、行政対応の改善提案も必要。

無料低額診療相談 年齢層の変化



今後も、地域でのこまめな支援や中断患者さんのフォロー、気になる患者さんの見守り体制づくり、無料低額診療事業をもっと知らせることなど、制度を守り、必要であれば制度を作り、変えることにも取り組んでいきたい。

【アンケートの感想より】

実は医療生協ということ自体をあまり知りませんでした。病気を治すだけでなく、診療所は地域の居場所になれるよという松井さんの言葉が印象的でした。たくさんの人に今回の話を聞いてもらいたいと思いました。

〈平井さん〉人と人とのつながりがもたらす力について再認識しました。
〈松井さん〉社会的処方の大切さについて理解しました。
〈工藤さん〉医療生協の取り組む課題の共有ができれば、購買生協で協力できることもあったと思いました。